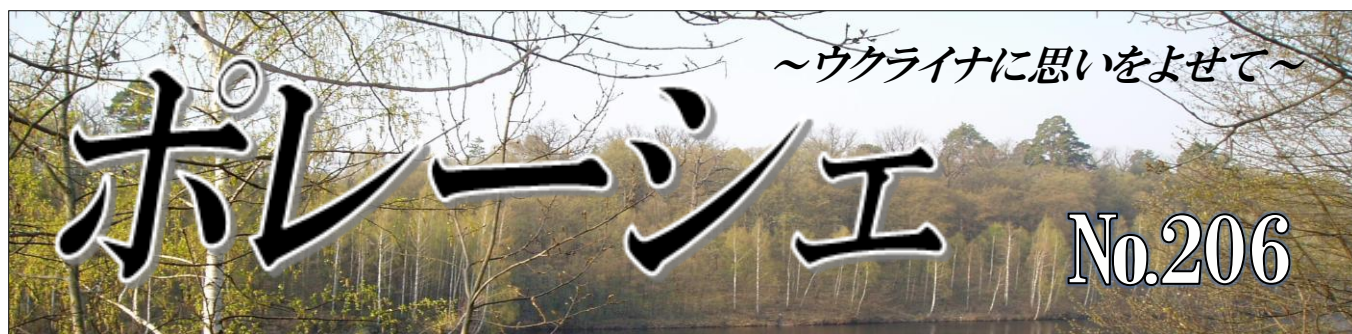


「ボレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2025 年 9 月 15 日発行

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

キーウ『ゼムリャキ/未来』

## 「子どもの家」支援のご報告

戸村 京子

ウクライナでの戦闘は、停戦や3者会談が言われながらも、連日多くのミサイルやドローンの攻撃は止まず、全土に大きな被害が続いています。

そのような状況下でも、キーウの市民団体『ゼムリャキ/未来』を通しての支援によって、「子どもの家(孤児・ロシアに



中央が団体代表のタマーラさん



4/26 ウクライナ・キーウの独立広場  
～戦死者の写真と旗の波～

隣接する地域の子ども等)」（キーウ北部チェルニヒウ州）の状況は、少しずつ改善されています。その様子は、現地の作業が進められる都度、以下のメールと写真が送信されてきています。

【5/27】「孤児院[直訳:子供の家]からのご報告をお送りします。まず改修から始めようとしています。家具を注文し、その後リストに従って入手していきます。孤児院当局の心からの感謝を皆様にお伝え下さい。ありがとうございます！タマーラ・クラシツカ」





先に届いたメールでは、【6/5】「これらの写真は、子供の家から送られてきたものです。購入された資材で、職員たちが自力で改修作業を始めました。壁紙を貼り、天井と〔集中暖房の〕配管にペンキを塗っています。もうベッドを発注しました。家具を造る職人も見つけました。

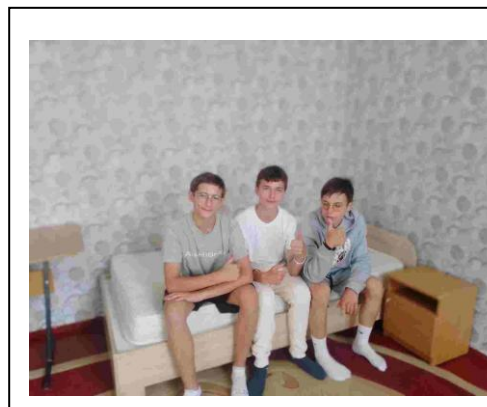
職員一同より、心からの感謝を伝えてほしいとのことです。皆様のご支援がなければ、この改修はできなかったでしょう。子供たちはきれいな部屋で暮らすことができ、喜ぶことでしょう。

皆さんよい一日を、明るい気分でお過ごし下さいますよう！ 敬意を込めて、タマーラ。

そして、【8/1】「孤児院からの報告写真をお送りします。すでに改修は終わり、ベッドは設置されました。子供たちと養育者たちより、心からの感謝を伝えてほしいとのことです」と。

皆さま、「子どもの家」へのご支援をありがとうございます。特に今回は真如苑様からも大きなご寄付をいただきました。

次は、子どもたちの学習教材、文具、ネット環境等を整えたいと思いますので、さらなるご支援をよろしくお願いします。

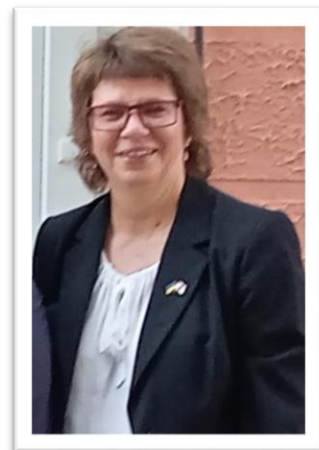


またさらに、タマーラさんからは、【8/1】「私たちは持ちこたえています。ほとんど夜ごとに爆発音が鳴り響き、眠れません。多くの犠牲者が出、多くの建物が破壊されています。すべての真実が報道されるわけではなく、パニックが起こらないよう、実際の数字は明らかにされません。でも私たちは自分の目で実情を見ています。私たちにできるのは祈ることだけです」という厳しい市民の生活の中の戦争が伝えられています。

『ゼムリャキ/未来』では、同時に、チョルノブイリ被災者、国内避難民への支援も継続しています。

## 親愛なる「チェルノブイリ救援・中部」のメンバーの皆さんと、 日本の友人の方々へ

女性、高齢者、子供たちを含む何十万人もの日本人が恐ろしい兵器によって殺害されたこの 8 月の日々、私たちは、私たちが皆さんと共にあることをお伝えしたいと思います。その核兵器は、人類によって初めて使用されたものでした。広島と長崎の町は、民間人と共に消滅させられました。これら悲劇の地では長年にわたり、放射線の影響によって人々が亡くなっていましたが、日本国民の体験した悲劇を国際社会が決して忘れないように、ヒバクシャたちの証言は世代を超えて伝えられています。



皆さんがすでに長く支援して下さいている私たちジトーミル州の住民は、この悲劇の日々、深い同情の意を表します。

このようなことが人類の歴史において二度と繰り返されないことを私たちは信じ、願いたいと思います。核兵器も、戦争も！

深い敬意を込めて、「チョルノブイリの人質たち」基金運営委員一同  
及び感謝の意を持つすべてのウクライナ国民より

2025 年 8 月 6 日

## 《《《 ECC 地球救済キャンペーンのご支援 》》》



37℃超えの酷暑に見舞われていたその日、(株)ECC 地球救済キャンペーン事務局の北村和久事務局長がご来訪。毎年この時期、ご寄付目録を携え事務所へお越しくださいます。

ECC とのご縁は今を遡ること 34 年、チェル救の活動が掲載された新聞記事を創業者の故山口勇理事長が目にしたことから始まります。チェルノブイリ被災者を支援したい。昔の事務所・

楽園アパートへお越しになった理事長は、熱く語られました。

理事長は企業活動で得た利益の一部は活動の土台である社会に還元すべきと考え、創業間もない時から「戦争・貧困・病気」「地球温暖化・砂漠化による地球環境破壊の防止」をメインテーマとした社会貢献活動に取り組まれ、その活動を担うNPO／NGOを継続的に支援され今に至ります。

ECC は「対面のコミュニケーション」を大切にされるとの事。まさに北村事務局長は事務所ご来訪で体現され、酷暑をいなして爽やかな笑顔を残し帰路に就かれました。

(山盛)

北海道深川市「アートホール東洲館」にて、8月2日～8月15日の間、  
「ウクライナの子どもたちの絵画展」が開催されました。

## 「ウクライナの子どもたちの絵画展」から

深川市アートホール東洲館 館長 渡邊 貞之

25年前、小さな街の小さな美術館として発足して以来、他の美術館ではできない小回りのきく特徴ある美術館作りをしようと心がけてきました。そのためには芸術作品などを紹介するだけの受身ではなく、自ら発信する美術館づくりを模索してきました。

その中の一つとして、「平和とは…」を問いかける企画も考え実践してきました。

第2次世界大戦で15000人ものユダヤの子ども達がアウシュヴィッツに送られていく間に描き残していった絵や詩を集めた「テレジンの子ども展」。「アフガンの子どもたちの絵と写真展」。パレスチナの戦火の中で、私財を投げ売って絵を描く喜びを指導してきた「上條洋子さんと子ども達の作品展」。人間の不条理や原爆の悲惨さを告発する「増田常德展」。隣の町秩父別町出身の「丸木俊、位里さんの原爆の図展」等…。そして今回の「戦時下のウクライナ子どもたち絵画展」と…。

こうした展覧会で私がいつも思うことは、日本の子ども達との比較でした。厳しい戦火のもとで、どうしてこのような思慮深い作品が描けたのか…。描いた子ども達の、生き続けようと願う想いが切実に伝わってきます。私が特に感銘を受けたのは、絵のコメントの中の「このきれいな青空のように、いつまでも幸せを忘れないで下さい」というメッセージでした。

自分  
たち

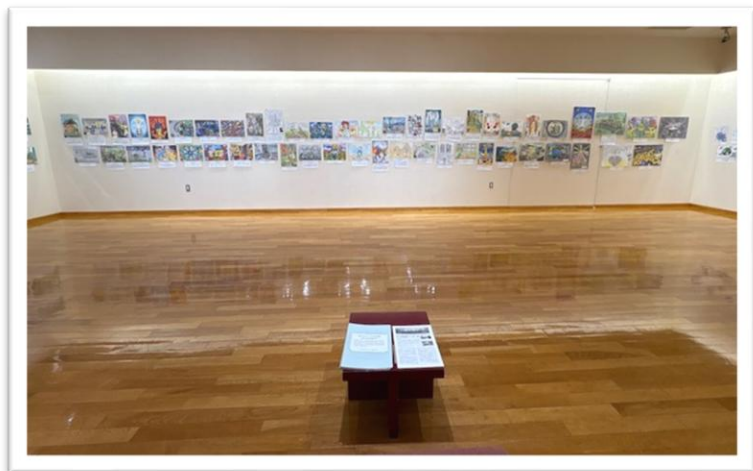
の過酷な生活  
の中で、私たち  
日本人に平和  
を忘れないで  
と言うこの子  
ども達…。胸が

打たれます。平和といわれている私たち日本の子ども達には決して見られない姿です。

修学旅行で自衛隊見学。戦車の砲台を跨いでにこにこ、ピースサインをする子ども達。機関銃を持たされて、その撃ち方を聞いて目を輝かせている子ども達…日本の教育はいったいどこに向かっているのでしょうか。平和の維持を綱渡りしている日本の子ども達に、このウクライナの子ども達の心の叫びをもっともって伝えたいです。

テレジンの子もアフガンの子も、そしてパレスチナの子も、現実の自分の状況を直視した絵はほとんど描こうとしませんでした。それより、かつて幸せだった頃の事を懸命に描いているのです。それは現実から逃れられない、死を目の前にした運命を知った絶望のメッセージなのだと思います。ウクライナの子ども達の絵は、現実を直視した残酷な光景や、恐怖を描いています。それは絶望ではなくまだ生きていける、生きていこう！とする望みや希望を持っていると思います。それだけにこの戦争が早く終わってくれることを願います。

この絵を描いた頃より、今はもっと状況が悪化していると聞いています。この子ども達はどうしているのでしょうか。現実生きることに絶望して、過去の幸せだった頃だけを絵に描くようにならないことを切に願います。



## 「福島原発事故には誰も責任なし」の司法判断——この国はどうなる

福島原発事故の東電経営者の責任を問うた「刑事訴訟」で最高裁は3月6日、「巨大津波は予想出来なかった」として被告の東電経営者ら3名の無罪を言い渡した。また6月6日、東電の株主代表訴訟でも東京高裁は「第一審の東京地裁判決（2022年7月）では東京電力の元社長ら旧経営陣4人の責任を求め、13兆3210億円の損害賠償を命じる画期的な判決」を覆し、「津波による事故は予測出来なかった」として全員無罪の真逆の判決を下した。原発事故避難者訴訟で最高裁は国の責任を認めない判決を下している。

## 福島原発事故から14年

事故から14年経た今も廃炉の見通しは立たず800トンを超えるメルトダウンした炉心取り出し実験も1回3グラム程度のレベルが続いている。放射能汚染水も毎日海に流し続けている。いつまで続くかわからない膨大な廃炉費用は国民の負担になる。社会と環境に甚大な被害をもたらした福島原発事故に誰にも責任がないとは！この国の無法国家ぶりがあらわになった。

このような事態をもたらす原発は作るべきでなかった。1970年の大阪万博に若狭湾から初めて送られた商業用原発（敦賀1号と美浜1号）の電気に「原爆はダメだが核の平和利用は未来のエネルギー」とマスコミは沸いた。事故や廃棄物問題を指摘する反対派に対し、国や電力会社は「事故は100万年に一回しか起こらない、放射性廃棄物はそのうち何とかする」と主張し原発を推進してきた。原発の専門家達も何時もその場しのぎの議論で社会を騙してきた。燃えないウランを燃えるプルトニウムに変換する「核燃料サイクル」はとっくに破綻したにも拘らず、いまだに青森県六ヶ所村再処理工場の運転を目指し、原発で生じた放射性廃棄物を「中間貯蔵施設」や「乾式貯蔵」、果ては「実験のためにフランス再処理工場に送る」などと言い訳を続け廃棄物処理の実施を延ばしている。環境省は福島原発事故で発生した膨大な量の汚染土壌を全国にばらまく準備をしている。

## 原発回帰の流れ

更に大きな問題は、地球温暖化や膨大な電力が必要な「AIデータセンター」を口実に、原発回帰の政策が各国で声高に叫ばれ世論誘導している。トランプ大統領は最近、大型原発10基を建設する（10兆8千億円）と発表した。米国のネット大手「マイクロソフト」社は、1979年に事故を起こし停止したままのスリーマイル島原発1号機を再稼働させ今後20年間、電力を買い取る契約をした（事故を起こした2号機は廃炉）。国内でも政府は原発回帰に躍起で、本来なら廃炉すべき老朽原発の再稼働や新型原発の開発に向けて動いている。そのつけは必ず来る。

## 南海トラフ巨大地震が待っている

今、改めて脱原発の動きを強化しなければならない。さもないと、今後予想される「南海トラフ巨大地震」でこの国は亡ぶ。日本地震学会によれば、今後30年間に南海トラフ巨大地震が起こる確率は約80%という。これもまた信頼出来ない、として国や電力会社は原発推進をするのか。

三権分立が事実上機能しなくなったこの国の未来は危うい。「今だけ、金だけ、自分だけ」の原子力村は廃村にして政治を変えなければこの国に未来はない。未来世代のために安全な社会を作る責任は我々現役世代の国民にある。

（8月19日 河田）

### 【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆6月 寄付／会費 79,500 円
- ◆7月 寄付／会費 713,000 円
- ◆2025 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）  
1,275,232 円（7 月末）
- ◆2025 年度ウクライナ救援基金 667,550 円（7 月末）
- ◆ウクライナ救援基金累計 29,431,750 円  
（2022/3/7～2025/7/31）
- ◆会員数 162 名
- ◆ポレーシェ読者数 687 名  
～心温まるご支援をありがとうございました～

### 【寄付のお願い】

- ◆銀行振込先  
三菱UFJ 銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆郵便振替 00880-7-108610  
〈口座名義〉  
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- \*クレジットカードでも受け付けております  
（ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！）
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。

## 今年もクリスマスカード・キャンペーン！

ウクライナでは侵攻が始まって3年が経過した現在でも、停戦や終戦の兆しが見えません。戦禍に曝されるなか、子ども達に与える影響は計り知れないものがあります。避難を強いられ、人との関りも減っていき、危険と隣り合わせの生活が3年以上続いています。家族を戦争で失った子や、怪我をした子もいます。



そういった子ども達や、チェルノブイリ、福島の子供達との交流や支援の一つとして、今年もクリスマスカード・キャンペーンを開催いたします。クリスマスを明るくお祝いしたり、寄り添いや励ましメッセージを子どもたちへ贈りたいのです。苦しみや恐怖を少しでも和らげるために、皆様のご助力をいただくと幸いです。



## イチオシ！ ウクライナ料理レストラン「ジート」

「ジート」とはウクライナ語で「麦」という意味。「ジート」は名古屋・栄、マルエイギャラリーの2階にあります。ロシアの侵攻により日本に避難をしてきたウクライナの人たちは、言葉の壁もあり仕事に就くことは容易ではありません。そのため自分たちで働く場所をつくれたら、との念願がかなった昨年オープンしたお店です。スタッフの皆さんはほとんど避難者で、来日後に覚えた日本語で対応してくれます。スタッフのスペトラーナさんは、「避難してきた人にとって、仕事があるということはとても大きなこと。それはウクライナでも日本でも同じです」と語っていました。

ウクライナの家料理はとても手が込んでおり、味はもちろんのこと、インスタ映える美しさは一見の価値あり。名古屋市のふるさと納税の返礼品にも加わった「ジート」。戦争が長期化する厳しい状況のなかですが、おいしく食べて応援しませんか。



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL&FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00 ～ 15:00）

E-mail [chqchubu@muc.biglobe.ne.jp](mailto:chqchubu@muc.biglobe.ne.jp) URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エーブリント

